

令和6年度 体力向上における各校の取組みと成果(小学校)

坂井市

教育委員会

| No | 学校名 | | 項目 | 具体的な取組み | 成果 |
|----|-----|-----|------------------|---|---|
| 1 | 三国南 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 単元に合わせ、個人やチームの目標が分かりやすく、児童が技術の向上や達成感を味わえたり、友達のよい点を見つけ伝え合えたりするような学習カードを作成し使用した(業間活動も同様)。 | 目標や達成感を味わいやすくする学習カードを使用したことで、運動が大好きと回答した児童が40%から50%に向上した。また、運動が苦手と回答した児童も5%から2%まで減少した。(体カテスト2023年度と2024年度の比較) |
| 2 | 三国北 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 5月「マラソントライアル」10月「マラソン大会」を実施した ・5月に比べタイムが1秒以上アップした児童にはタイムアップ賞シールを配布。 ・5月と10月には「Run Run Time」という名の業間走を行った。 10月の「Run Run Time」で児童に配ったワークシートには、5月のタイムや、マラソン大会の目標タイムを記入する欄を設けて、具体的なめあてをもって走るように促した。 | 5月に実施した「マラソントライアル」から10月実施の「マラソン大会」までに1秒以上タイムアップした児童は約86%いた。昨年度の約75%から数値が大幅にアップした。具体的なめあてをもって走らせたことが成果につながったと思われる。 |
| 3 | 雄島 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | なわとび交流会を実施した | 今年度は、体育館だけでなく、学校の空いているスペースも縄跳びをできるようにしたことで、昨年度よりも、児童は縄跳びに積極的に取り組んでいた。 |
| 4 | 加戸 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 大休みと昼休みの体育館とグラウンドの割り振りを2学年ごとにし、広いスペースを思い切り動けるようにした。 | 自由に遊べる時間と場所を多く設定したことから、進んで外遊びや運動遊びに取り組む児童や、体育的な行事に意欲的に取り組む児童が増えた。 |
| 5 | 三国西 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 意欲が高まるような場の設定をした。 | 学校評価の「進んで体力向上することができた」と回答した児童は、94%と昨年度よりも向上した。 |

| | | | | | |
|----|----|-----|------------------|--|--|
| 6 | 平章 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | マラソンやなわとびの活動では、業間体育とのつながりをもたせるようにした。各種体育カードを活用し、自主的に練習に取り組めるようにした。 | 活動がない休み時間も廊下でなわとびをする児童が多数いた。体力テストの数値は全国平均を超えるものがほとんどだった。 |
| 7 | 長畝 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 準備運動にグー・パー体操、上体起こしを取り入れた。 | 授業の導入の運動として、楽しんで取り組むことができた。また、体力テストでは、握力や上体起こしの記録が平均を上回ることができた。 |
| 8 | 高椋 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | はぴりゅうスポーツ広場やかけっこ教室(トップアスリートを招いた授業)を積極的に活用し、主体的に体力向上に挑戦する児童の育成を図った。 | 全国体力テストの結果から、50m走は小学5年男子が平均で0.06秒速くなった。また、反復横跳びでは、男女とも約3点大きくなった。かけっこ教室では、高学年児童が走ることの楽しさに気づくことができていた。 |
| 9 | 鳴鹿 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | 以下の行事・活動を児童会主催で行った。 ・パワーアップデー(運動会) ・鳴鹿っ子逃走中 ・雑巾がけレース ・鳴鹿っ子雪だるま祭り | 児童会主催ということもあって、どの行事・活動も主体的に楽しく行うことができた。また、運動に親しむ中で、異学年交流の機会が生まれ、絆づくりをすることができた。 |
| 10 | 磯部 | 小学校 | 本校の体力向上の取組について | 主体的な学習の促進のため、ICTを積極的に活用した。 | 教師主体の授業ではなく、児童主体の授業が多くなった。児童が、主体的に課題を見つけ、解決していくための手立てを考えていく力がついてきた。 |
| 11 | 明章 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | ふれあいタイムや昼休みの外遊びを奨励した。 | 8割ほどの児童が晴れの日以外で遊んでいた。進んで体を動かしていると答えた児童が9割をこえた。 |

| | | | | | |
|----|-----|-----|------------------|--|---|
| 12 | 春江 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | 体育委員会によるスポーツイベントの企画・運営をした | 体育委員会が中心になって、様々なスポーツイベントを開催することができた。前期は、各学年の実態に合わせて、ドッジボールや鬼ごっこなどを行った。後期は、ミニ運動会を企画し、玉入れや大縄跳び、しっぽ取り、リレーなどの競技を行った。学校評価では「体を動かすことが楽しい」と答えた児童が、昨年度より約1%増えた。 |
| 13 | 春江西 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | 体育学習カードやICT機器を使用し、自身の記録や考えの変容を確認したり、フォームや模範演技の確認をしたりした。 | 前時の作戦を見直して新しい作戦を考えようとする姿や、タブレットのアプリのお手本を何度も確認し、マッチ度を上げようとする姿が見られた。 |
| 14 | 大石 | 小学校 | その他 | 外部指導者を積極的に活用し、ディスクゴルフやディスクドッジ、卓球、障がいスポーツなど地域で親しまれている運動に広くふれる機会を設けた。 | ディスクゴルフでは世界で活躍する選手、サッカーでは福井ユナイテッドの選手と交流し、高い技能にふれること、運動意欲の向上につながった。また、フライングディスクなどの障がいスポーツも体験し、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の基礎づくりを行うことができた。 |
| 15 | 春江東 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | はぴりゅうスポーツ広場の活用。 2学期は、月に1回、3学期は週に1回、縦割り班で活動を行った。（「準備物なし」「低学年でも出来る」種目を選択してワークシートを作成し、4～6年生に配付して事前にやる内容を決めておいた。） | 4～6年生は、下学年にコツを教えられるようになった。下学年は、教えてもらった種目を休み時間に積極的に練習するようになった。その結果、1回しか出来なかった技が何回も出来るようになったり、新しい技が出来るようになった。 |
| 16 | 東十郷 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 各単元の初めに短いオリエンテーションの時間を設ける。準備運動にランニングやグーパー運動、なわとびを取り入れ、持久力や握力の向上を図った。 | 2学期のマラソン大会、3学期のなわとび大会での持久とびなど年間を通して体力を高める行事に取り組むことによって、持久力が高まった。（体力テストのシャトルランの項目では、昨年度より平均値が15回増えた。） |

| | | | | | |
|----|----|-----|------------------|--|---|
| 17 | 大関 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | タブレットで自分の動きを撮影したり、自分で改善点を考えたり、友達と教え合ったりする活動を取り入れた。 | 自分の課題に気づいたり、新たな課題を設定したり、友達と教え合ったりする姿が見られ、その気づきをもとに、さらに技の完成度を高めようと進んで練習に取り組んでいる姿がたくさん見られた。 |
| 18 | 兵庫 | 小学校 | 本校の体力向上の取組みについて | 業間活動で、週2回のマラソンとサーキットに取り組んだ。また、冬季は8の字跳びに取り組んだ。 | サーキットにも取り組んだことで、基礎的な体力だけでなく、ボール投げや鉄棒運動の力を育成することができた。 |
| 19 | 木部 | 小学校 | 児童生徒の運動習慣の育成について | 業間運動として、週1回全校で運動する時間を設定し、自分の記録更新に向けて春と秋はマラソン記録会、冬はなわとび大会を開催し、目標達成に向けて力を発揮できるようにした。冬期は、縦割り班で大縄にも取り組み、上級生が下級生に言葉をかけながら主体的に練習を進めるようにした。 | 異学年と交流することで、下級生の技能向上が見られたり、下級生に声かけをするなど、思いやりの気持ちをもったりすることができた。 |